

2025年度自賠責運用益拠出事業

車いす移動車利用時の車椅子簡易固定システム  
の社会実装に向けた研究報告書  
(2年計画の2年目)  
<概要編>

2025年12月23日  
一般社団法人 日本福祉車両協会 内  
車椅子簡易固定標準化コンソーシアム

# 1. 研究概要

## (1) 背景

- ・通所介護施設等で使われている車いす移動車は、車内で車椅子を固定する必要があり、車いす移動車には、車椅子の前後4点をフックで固定する装置(図1)が設定されている。
- ・しかし、車椅子の固定作業は運用者の作業負担が大きく、固定作業不良による事故懸念もあり、車椅子移送・車いす移動車の課題になっている。
- ・車椅子と車いす移動車メーカーはこの課題を解消するため、車椅子簡易固定システム(図2)を考案し、行政と連携して標準化を推進しているが、普及には運用者に実際にお使いいただき、メリットを実感いただくこととそのメリットの幅広い共有が不可欠。

## (2) 研究概要と狙い

- ・一般社団法人日本在宅介護協会より協力いただける施設を紹介いただき、簡易固定対応の車椅子と車いす移動車を貸与。車椅子簡易固定の効用やご意見を収集する。
- ・具体的には車椅子固定に纏わる課題(ヒヤリハット発生等)の解消を実証するため、比較対照の施設保有車両使用時と合わせて車両運行記録をとる。また、貸与期間終了時に運用者へのアンケートとインタビューを行い、メリットや課題を明確にし、車椅子簡易固定システムの認知拡大や対応機器の改善に活用する。
- ・なお、偏りの少ないデータ収集と調査効率を勘案して、3か月間の貸与を3施設同時に年1回、2年で計6か所の施設で実施する計画とし、25年はその2年目である。

## (3) データ収集に纏わる24年からの改善点

### ① ヒヤリハット捕捉改善

- ・24年のヒヤリハット捕捉件数は簡易固定時0件で目標達成も、従来固定時も1件しかなく簡易固定方式の優位が顕著にならなかった。
  - ・インタビュー等から施設スタッフにとってヒヤリハット＝インシデントで、報告ハードルが高いこと等により、記載外のヒヤリハット未満の事象が起こっている事も判明した。
- 記録表に車椅子固定に纏わるヒヤリハット例を明示すると共に、ヒヤリハット未満と判断された事象も捕捉(記録)できる様にした。

### ② 簡易固定方式試用実数の把握

- ・貸与(簡易固定対応)車両でも、ご利用者様の従来車椅子での乗車のため、従来固定での運用が相当にあることがインタビューから判明した。
- 簡易固定または従来固定時のヒヤリハットの切り分けを確実にするため、貸与車両での運用時の車椅子実情(貸与orご利用者様)を記入いただくことにした。

図1 車椅子移動車内の車椅子4点固定

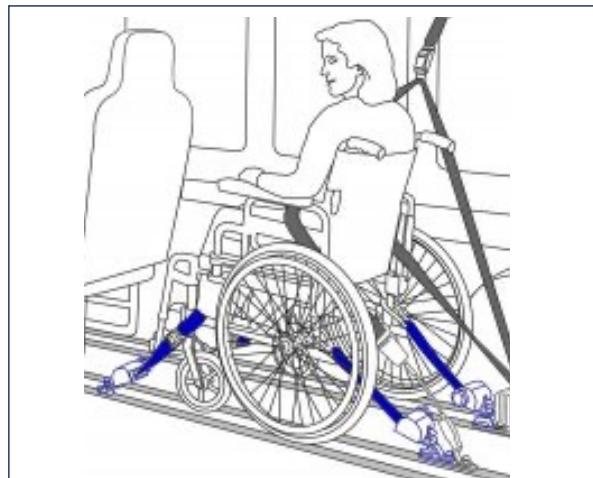
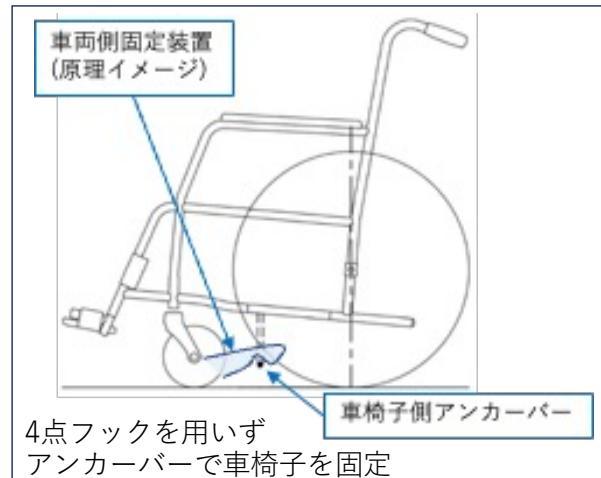


図2 車椅子簡易固定システム



## 2. 協力施設と貸与物

施設名*1 (実施期間)	施設外観	所在地	貸与物*2
株式会社 全労済ウィック 在宅介護 サービスセンター ほほえみ (6.9-8.27)		島根県 松江市	 トヨタ自動車 ハイエース   <b>スズキ エブリイ</b>  日進医療器 Nツアラー
株式会社ニックス 東デイサービス センター (6.10~8.28)		広島県 広島市	ハイエース Nツアラー   <b>スズキ スペーシア</b>
エルケア株式会社 デイケアセンター 堺 (6.17~9.10)		大阪府 堺市	ハイエース   <b>日産 クリッパリオ</b>   ミキ カムカムシリーズ

\*1 協力施設について 全施設とも研究意図に賛同いただきボランティア協力いただいた。

\*2 貸与物について

- ・車いす移動車は、昨年同様、リフト車と軽スロープ車で固定機構が異なるため使用上の差異へのご意見を伺うためトヨタ自動車ハイエースと各社軽スロープ車(青字)両機種を各施設に貸与した。
- ・貸与品は全て市販済品とし、昨年は車両はトヨタ自動車ハイエース、スズキスペーシア、車椅子は日進医療器Nツアラーのみで全施設同じであったが、本年はその後市販された、車いす移動車(スズキ エブリイ、日産 クリッパー)、車椅子(ミキ カムカムシリーズ)を貸与品に加えた。
- ・貸与品は全てコンソーシアム車椅子簡易固定ガイドライン準拠品で車椅子固定機能に違いはない。

### 3. 結果概要

#### (1) 車椅子固定に纏まるヒヤリハット撲滅～運行記録の結果

研究期間内の車椅子固定に纏まるヒヤリハットは、**簡易固定時0件、従来方式時8件**（3施設 表2）となり、簡易固定方式の安全上のメリットが明確になった。

- 3ヶ月間貸与車両と比較のための施設車両の運行状況を記録いただき、研究期間内の運行記録数は、目標(100回/車以上で計600回)、及び昨年を超える結果になった。
- 貸与車両を本来の簡易固定でお使いいただいた回数を捕捉できる様にした結果、各施設とも約100回(計約300回)と適切な評価を得るのに十分な回数をお使いいただけている事が判った。（表1）

表1 運用記録回数

車両区分	25年	24年
貸与車両	887	629
うち簡易固定利用	294	—
施設車両	844	793

表2 ヒヤリハット回数

固定方式	25年	発生率(%)
簡易固定	0	0.0
従来固定	8	0.6

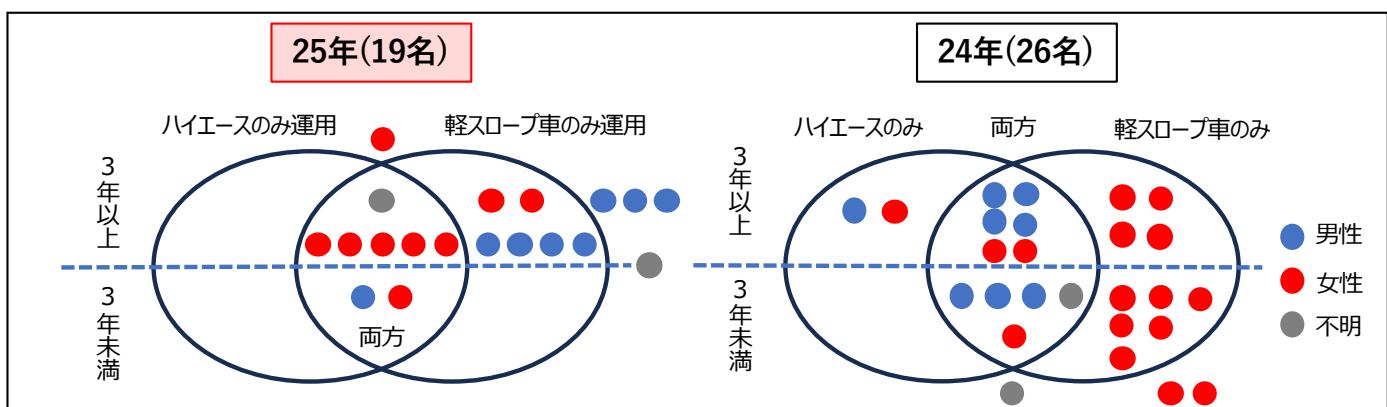
#### (2) 運用者アンケートの結果

3年以上の経験者を中心に**簡易固定のメリット**には約90%の極めて高い同意評価が、従来固定との比較や施設導入意向についても70%前後の高い肯定的評価が得られた。

##### ①回答者特性

- 実運行(運行記録)者数が昨年の31名に対し23名と少なく、回答参加率が昨年も本年も同等(約80%)だったため、アンケート回答者数は昨年の26名に対し19名に減少した。
- アンケート回答者の特性は昨年が3年以上経験者数と同3年未満が拮抗していたのに対し、本年は3年以上経験者が90%近い(16名/18名中、経験歴不明1名を除く)。（図3）

図3 アンケート回答者特性



### 3. 結果概要

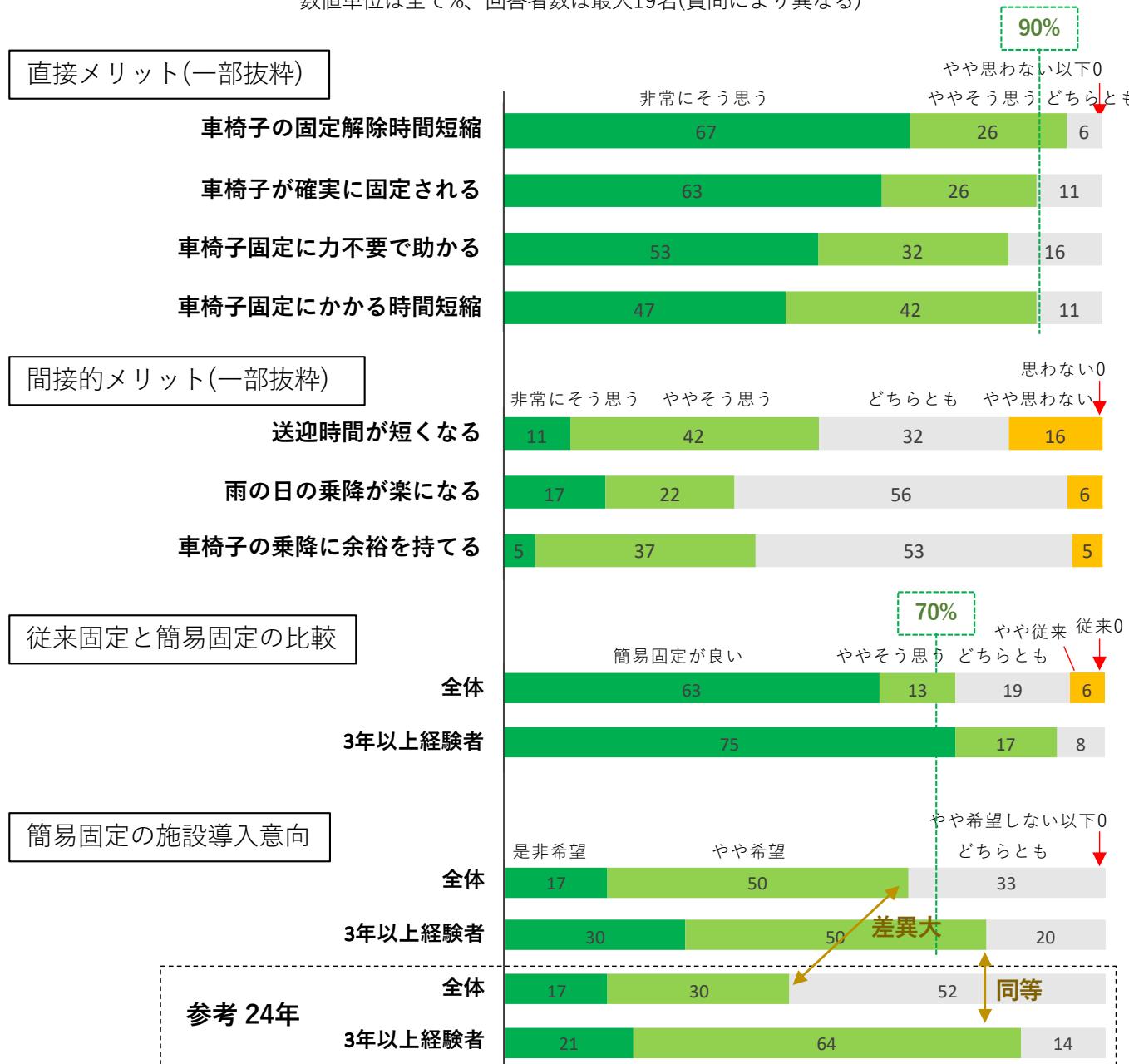
#### (2) 運用者アンケートの結果

##### ②結果まとめ(図4)

- ・"直接メリット"は昨年の80%程度を超える90%前後の積極評価(非常に+やや)をいただき、否定(思わない)評価も皆無で大変好評。"間接的メリット"も概ね高評価。
- ・"従来固定との比較"や"施設導入希望"の積極評価も昨年の約50%に対し約70%の高評価。
- ・但し、全般的に昨年より評価が高いのは、今年のアンケート回答者の経験者層比率の高さが主因であり、"施設導入意向"に例として提示した24年のデータで判るように、3年以上の経験者層の評価レベルは概ね全項目、昨年と同等(ともに高評価)であった。

図4 運用者アンケート結果

数値単位は全て%、回答者数は最大19名(質問により異なる)



## 4. 課題考察～アンケートおよびインタビューから

簡易固定方式自体は高評価だが、普及には**対応車椅子のバリエーションを増やすこと**と**ご利用者の車椅子を簡易固定対応にしていただく必要性が更に明確になった。**

### (1) インタビューについて

- ・各施設とも研究期間最終日に、対応可能な実運用スタッフに約30分のインタビューを行い3施設計12名から運行記録やアンケートの背景にある生声を収集した。
- ・昨年の運用記録者31名に対しインタビューは13名で参加率42%に対し、本年は同53%と実運用者の半数超の参加をいただけ、より幅広いご意見を収集できた。(図5)

### (2) 主なコメント

#### ①固定作業について

- ・急いでいる時、停車しにくい場所など短時間で乗降する必要のある場合に特に有益。
- ・確実に固定されるため安心。利用者にとっても揺れが少ないため負担が少ない。
- ・腰や膝に不調を抱えているドライバーにとっては身体にとって負担がない。
- ・固定方法が統一されているため新人でもすぐに&確実に手順を習得することができる。

#### ②車椅子について

- ・固定部構造が統一されているため扱いやすい。ご利用者の車椅子は、バリエーションが多く個々に対応する必要があり、中には非常に扱い辛い車椅子も含まれ、新人教育もやりにくい。
- ・簡易固定対応車椅子を普段使うことに問題はない(アンカーバーが何かに引っ掛かることはほぼ無かった)ため、幅広い仕様の車椅子への簡易固定の展開が望まれる。

#### ③簡易固定対応車椅子の課題

- ・利用者に簡易固定対応車椅子がすぐに普及するとは思えず、**施設で車両と車椅子をセットで保有し玄関先で移乗**が普及に至るまでは現実的と思われる。
- ・但し、移乗前提では、普段は車椅子を利用せずに送迎している人が施設車椅子に移乗できる人に限られる。普段車椅子をご利用の方は身体状況に合わせた車椅子をお使いのため、今回貸与いただいた様な**汎用車椅子に移乗できるケースは少ない**。
- ・移乗できる場合も、お迎え時は簡易固定対応車椅子の積込み、帰路は施設内で使うため利用者の車椅子を車両に乗せる必要があり、車両スペースが必要&却って手間が掛かる等によりメリットは目減りする。

図5 運用者インタビュー状況

全労済ウィック 在宅介護サービスセンター  
「ほほえみ」様での実施例



#### <主な生コメント>

- ・車椅子固定のやり直しが無く固定性能向上が峠越えのある送迎時に嬉しい。
- ・寒くて暗い冬の送迎時には更に助かりそう。
- ・施設車椅子(備品)としての導入は、専用車椅子の方も多く効果は限定的

以上